

1. 部会について

○目的

東京都ドクターヘリ運航事業に係る現状及び課題を把握した上で、**都民や関係者に対してドクターヘリ運航事業の理解の推進及びドクターヘリの効果的な活用について**検討、協議を行う

○委員構成

学識経験者、医療機関（基地病院、協力病院及び救命救急センター）、関係団体、関係行政機関

2. 第1回部会の開催結果

○令和7年1月30日（木）開催

○ドクターヘリ運航事業の**実績等について振り返り**を行い、**事業効果や課題の改善、都民や自治体等への正確な情報発信**、多数傷病者への対応に備えて訓練等を通じた**広域連携の必要性など**について、質疑、意見交換

【主な意見】

- ・ 毎日、病院とヘリ発進基地との往復など病院関係者の尽力により、事業が実施されていることに感謝する
- ・ 診療人数も増加、都民からの感謝の声も届いており、ドクターヘリの迅速な出動による効果は認められる
- ・ ドクターヘリ、ドクターカー、いずれも医師が早期に救命処置に介入する点で同じ。それぞれの活用の仕方についても今後の検討課題
- ・ 診療に至らなかったケースについて、キャンセルが出るのはやむを得ない面もあるが、検証した上で、地域の特性やキーワード方式の改善など見直しも必要ではないか
- ・ ランデブーポイントの新規の開拓や土日などにも使用できる場所を確保することも必要ではないか。病院などの緊急離発着場を実際に利用できるようにしていくことが必要
- ・ 災害時に有効に活用できるように、訓練に定期的に参加すべき。多数傷病者が発生した場合、ヘリでのピストン輸送なども効果的と考えるので、積極的に検討を進めてほしい
- ・ 有事の際の広域での連携だけでなく、都内での実績と経験を積みながら、日頃から連携できるような隣県との協定の締結を進めていただきたい

東京都ドクターヘリ部会 委員名簿

令和 7 年 1 月 3 0 日実施
東京都ドクターヘリ部会
資料 2

(敬称略)

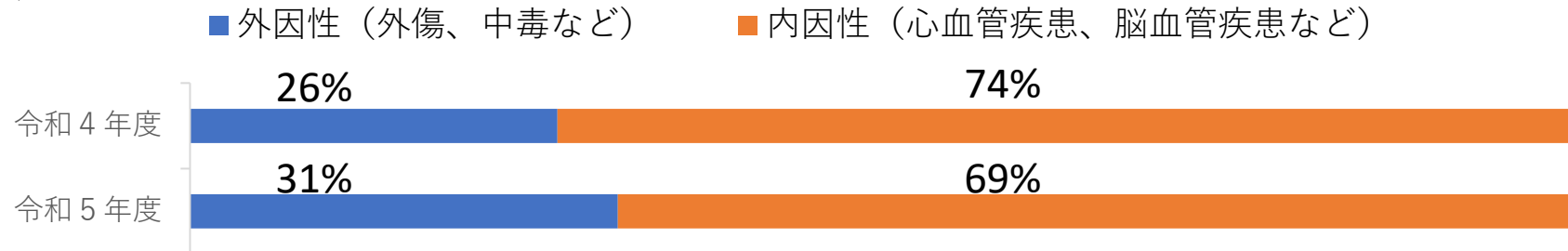
区分	委員	役職等
学識経験を有する者	坂本 哲也	公立昭和病院院長
	横田 裕行	日本体育大学大学院保健医療学研究科長・教授
医療機関 (基地病院)	山口 芳裕	杏林大学医学部救急医学教室主任教授
医療機関 (協力病院)	弦切 純也	東京医科大学八王子医療センター救命救急センター長
	清水 敬樹	東京都立多摩総合医療センター救命・集中治療科部長
医療機関	横堀 将司	日本医科大学付属病院救命救急科部長
	三宅 康史	帝京大学医学部救急医学講座教授
	杉山 和宏	東京都立墨東病院救命救急センター責任部長
関係団体	新井 悟	公益社団法人東京都医師会理事
	矢部 信栄	日本赤十字社東京都支部事務局長
	川久保 孝	公益社団法人東京都薬剤師会災害対策委員会副委員長
関係行政機関	川原 省太	東京消防庁救急部参事兼救急管理課長

実績

(1) 出動実績

	出動数	診療数(人)	診療に至らなかった数
令和4年度	683	150	533
令和5年度	1360	306	1054

(2) 診療の内訳



※ドクターヘリによる救命処置、搬送により、心肺停止状態から後遺症なく退院された事案や、交通事故に対して救命できた事案などについて、都民から感謝の声あり

(3) 診療に至らなかったケース

○ 出動後、患者の診療まで至らずに**ドクターヘリがキャンセル**となる事案が多く発生

○キャンセル理由は、

- ①ドクヘリ搬送対象外（66%程度）
- ②ランデブーポイント使用不可（15%程度）
- ③社会死判断（14%程度）

が大半を占める

ドクターヘリキャンセル理由の内訳（令和5年度）

